

事業報告

学発番号：学19-036★（日臨技推進事業）

事業名：令和元年度 京臨技病理検査講演会（第5回みやこ病理検査講演会）

日時：令和元年12月8日（日）13:00～17:00

場所：京都府立医科大学 基礎医学学舎1階 第1講義室

主題1：病理検査技師のための遺伝子検査の基礎

講師1：岩根 文男 技師（京都岡本記念病院）

主題2：当院における病理検体を用いた遺伝子検査と検体品質管理について

講師2：山口 直則 技師（綾部市立病院）

主題3：がんゲノム医療における臨床検査技師の関わり
～兵庫県立がんセンターでの取り組み～

講師3：南 智也 技師（兵庫県立がんセンター）

主題4：肺癌診療における気管支鏡検査の最前線

講師4：今林 達哉 先生（京都府立医科大学附属病院 呼吸器内科）

参加数：総数：61名（京臨技会員：28名）

報告者：久保 喜則（京都第一赤十字病院）

以下、講演内容など

がんゲノム医療は、2019年6月から一部の遺伝子パネル検査が保健適用となり、まさに実用化元年とも言われていますが、こうした病理技師の置かれる状況から、今年は、病理分野に係わるがんゲノム医療、遺伝子検査について、基礎から学ぶ講演会を企画いたしました。前半2題は、病理検査技師に必要な遺伝子検査の原理や今後の展望、検体品質についてご講演していただき、後半2題は臨床検査技師と臨床医が医療現場で行っている役割や経験をそれぞれの立場からご講演いただきました。がんゲノム医療の国策には、遺伝カウンセリングに関わる人材の育成・配置が挙げられ、がんゲノム医療コーディネーターの担い手として病理検査技師も例外ではありません。ゲノム医療を必要とするがん患者が全国どこにいてもがんゲノム医療の提供が可能となるよう、技術的スキルや知識、コミュニケーション能力の向上が今まで以上に必要であることを講演会参加者に学んでいただきました。質疑応答では各施設や個人が抱える疑問などが活発に討論され、情報交換が行われました。本講演会は日臨技推進事業ならびに認定病理検査技師更新指定研修会を兼ねて開催しました。全国から多数の参加者があり、大変有意義な講演会となりました。参加して頂いた会員に感謝致します。